

おらせ

板橋区立男女平等推進センター「スクエア・I (あい)」

「少人数でちょっとした打ち合わせをしたい」「男女共同参画について調べたい」「女性活躍について参考となる資料や本が見たい」等、いろいろな目的で活用できるセンターがここにあります。是非、一度ご来館ください!!

情報資料

情報資料コーナーでは、男女平等参画をはじめ、様々な分野の本・雑誌・DVD等が揃っています。閲覧・貸出(2週間、5冊まで)も行っていますので、情報収集や学習にお役立てください。



団体交流

団体交流室は、情報資料を読んだり、活動・交流の場として利用できるフリースペースです。登録団体の方を中心に一般の方も利用できます。団体の登録要件等は、区ホームページまたは男女社会参画課までお問い合わせください。



相談室

自分自身のこと・家族のこと・仕事のこと・DVのこと・・・
ひとりで悩んでいませんか?電話や面談による相談を受け付けています。
まずはお電話ください。

相談室 ☎03-3579-2188



情報資料コーナー・団体交流室

- 所在地
板橋区立グリーンホール7階
- 開館日・開館時間
月～日曜日 9時～21時30分
※施設点検日・年末年始を除く
- 電話
03-3579-2790

男女平等推進センター相談室

- 所在地
板橋区保健所5階
- 相談日時
【総合相談】※祝日・年末年始を除く
月曜～金曜日及び第2土曜日の9時～17時
※その他、フェミニスト相談・DV専門相談については相談室までお問い合わせください。

板橋区立男女平等推進センター

No.17

I City

～あいしてい～

この通信は、板橋区立男女平等推進センター「スクエア・I (あい)」が発行しています。

2018年12月14日発行

特集

オリンピックにおける女性活躍の過去と未来

東京2020大会まで、残り2年

をきりました。多種多様な

競技では、男性も女性も同じ

ように活躍していますが、当初は

女性が参加できない大会もありました。

今回は、オリンピックにおける女性活躍の過去と未来をテーマに、お伝え

します。

<I City (あいしてい) に関するお問い合わせ>

板橋区役所男女社会参画課 ☎03-3579-2486



東京 2020 大会では、女性の参加率が「48.8%」と過去最高になる見通しです。第 1 回アテネ大会から 124 年。どのような歴史を経て、ここまでの参加率になったのでしょうか。



第 1 回大会は女性の参加は認められず（1896 年アテネ大会～）

1896 年の第 1 回アテネ大会では、**女性は参加できませんでした。**

その後、1900 年の第 2 回パリ大会でテニスとゴルフが、第 3 回大会以降はアーチェリー、フィギュアスケート等が加わりますが、体力で順位を競う陸上競技等への女性の参加は、しばらく認められませんでした。

基礎を築いた人見絹枝選手（1928 年アムステルダム大会～）



1928 年アムステルダム大会で、女性のオリンピック陸上競技への参加が認められます。

日本からは人見絹枝選手（陸上競技）が初めて参加。女子 800 メートルで、**銀メダル**を獲得します。

当時、女性がスポーツをすることが珍しい時代でしたが、人見選手はその後も、新聞社のジャーナリストとして、海外のスポーツ事情の紹介、後進の育成、生涯スポーツの重要性についての普及啓発などを精力的に行いました。しかし、1931 年、人見選手は 24 歳の若さでこの世を去ります。短い期間ではありましたが、**人見選手の活躍は、今日の女性スポーツの基礎を築くことになりました。**

続く女性参加への差別と偏見（～1964 年東京大会）

その後、女性が参加できる競技は **1964 年東京大会**では **7 種目**まで広がり、女性の参加も増えていきますが、依然、大会を運営する男性から見て「女性らしさ」がある競技がほとんどで、女性への差別や偏見は根強く残っていました。

運動、宣言、そして参加率の上昇へ（1970 年代以降）

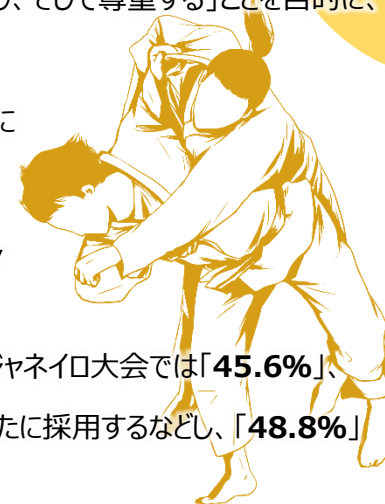
1970 年代に入ると、「女性の権利」を主張する運動が世界中で高まり、1979 年には「女子差別撤廃条約」が採択されます。

さらに、1994 年、「世界女性スポーツ会議」において、「スポーツのあらゆる面において、女性が最大限に関わることを可能にし、そして尊重する」ことを目的に、「**ブライトン宣言**」が採択されました。

これらを受け、女性の競技数や参加率はさらに上昇し、**2012 年ロンドン大会**において、

ボクシングに初めて女子種目が加わったことで、**全競技で女性の参加が可能**となりました。

そして、女性の参加率は、2016 年のリオデジャネイロ大会では「**45.6%**」、東京 2020 大会では男女混合 9 種目を新たに採用するなど、「**48.8%**」になる見通しです。



女性アスリートの活躍に残る課題（未来へ向けて）

スポーツへの女性参加が進む一方で、女性アスリートは妊娠等を機に引退するケースも多く、「**出産・育児と競技生活の両立**」が課題となっており、「大会での託児所」や「復帰に向けた制度の充実」など、環境整備や周囲の理解が求められています。

そして、このような課題について多くの方々が考え行動することは、東京 2020 大会の大会ビジョンの 1 つである「**多様性の調和**」の実現にも繋がっていきます。是非皆様も、過去を知り、未来をイメージしながら、お互いを認め合い活かし合う気持ちを持って、東京 2020 大会を応援していきましょう。